

改訂第2版序文



拙著「Dr. 夏秋の臨床図鑑 虫と皮膚炎」を2013年に出版してから10年が経過した。幸いにも、発刊してから多くの方々から好評を得ることができた。皮膚科医だけでなく、小児科医、救急医、そして一般開業医の先生方からも、日常診療に役立つ本としてお褒めの言葉を頂戴した。そして意外だったのは、医学専門書として出版したにもかかわらず、多くの一般読者の方々にもご支持いただけたことである。特に、虫好きの子供たちが目を輝かせてこの本を眺めていた、という話をよく耳にした。このように、拙著が世間に広く認識されて一定の評価を得たことは、著者として嬉しい限りである。

初版では、国内で皮膚炎を起こす主な虫とその生息環境、そしてその虫による臨床像を網羅する、という過去にない画期的な内容で出版することができて、自分なりにその完成度の高さに満足していた。しかし一方で、皮膚炎を起こすことが知られているが拙著に掲載されていない虫も少なくないことがずっと気になっていた。いつかはこれらすべてを網羅する形で増補改訂ができないものか、と考えていた。そのために、全国を行脚しつつ、より多くの虫を観察・採集・撮影する活動を精力的に続けていた。初版発行後に国内での生息や被害が確認されたヒアリ、タイワンタケクマバチ、ネッタイトコジラミなどの虫も現れたので、その情報集めにも奔走した。それでも、自分一人だけの力ではすべての虫を集めることは困難であり、多くの先生方や知人、友人などに多大なるご協力をいただくことで、より充実した内容にすることが可能となり、今回の改訂第2版では100種類以上の虫を追加することができた。

本書でも、初版と同様に虫の生息環境、生態、標本、臨床像など、すべての写真を自分自身で撮影することにこだわった。また、これも初版同様、多くの虫について、自らの皮膚を実験台にして皮膚症状の臨床経過や病理組織像を確認した。さらに、少しでも虫の生態や動きを感じていただくために、可能な限り動画を撮影し、短時間ではあるがQRコードで動画をご覧いただけるように工夫した。

改訂第2版を制作するにあたっては、初版でお世話になった方々だけではなく、たいへん多くの方々から虫に関する情報や助言、生体や標本などのご提供をいただいた。中でも、埼玉医科大学の高橋守先生、大阪市立自然史博物館の松本吏樹郎先生には貴重な所蔵標本をご提供いただき、撮影させていただいた。石垣島在住の山田

守氏には南西諸島の虫で長年、お世話になっていたが、残念ながら2020年にご逝去された。山田氏には心より哀悼の意を表したい。その他にも、特にお世話になった方々のお名前を末尾に掲げたが、これらの方々以外にも、日本衛生動物学会の諸先生方、大阪昆虫同好会の会員諸氏、そして全国の多くの虫仲間にもたいへんお世話になった。この場をお借りして心より御礼を申し上げたい。

皮膚科の分野では、いつも私の活動にご理解をいただいている兵庫医科大学皮膚科学講座主任教授の金澤伸雄先生、長年に渡ってご指導いただいた兵庫医科大学名誉教授の山西清文先生、そして、日頃から医局での私の活動をご支援いただいている教室の諸先生方、および同門の諸先生方にも厚く御礼申し上げます。

本書制作にあたって、株式会社Gakken メディカル出版事業部の宇喜多具家氏には私のこだわりの本の実現に向けて数々のご無理をお願いし、多大なるご尽力をいただいた。宇喜多氏、ならびに編集部のスタッフの方々にも御礼を申し上げます。

末筆ながら、常日頃より私の活動に多大なるご支援とご理解をいただいている恩師の高田伸弘先生、そして長年に渡って日常生活はもちろん、あらゆる面で私を支えてくれた最愛の妻に改めて心から感謝の意を伝えたい。

● 特にお世話になった方々

伊東拓也 (北海道立衛生研究所)
荻野和正 (産業医科大学)
佐々木昇 (尼崎中央病院)
橋本佳明 (兵庫県立大学)
宮内俊次 (宮内皮フ科クリニック)
矢野泰弘 (福井大学)
小林秀司 (岡山理科大学)
馬場まゆみ (国立療養所奄美和光園)
高橋祐美 (瀬戸内徳州会病院)
有吉 立 (アース製薬株式会社)
野村拓志 (アース製薬株式会社)
引土知幸 (大日本除虫菊株式会社)
小松謙之 (株式会社シー・アイ・シー)
富岡康浩 (イカリ消毒株式会社)
木村悟朗 (イカリ消毒株式会社)
田中 巧 (株式会社ピアブル)
(順不同, 敬称略)

2023年8月
夏秋 優